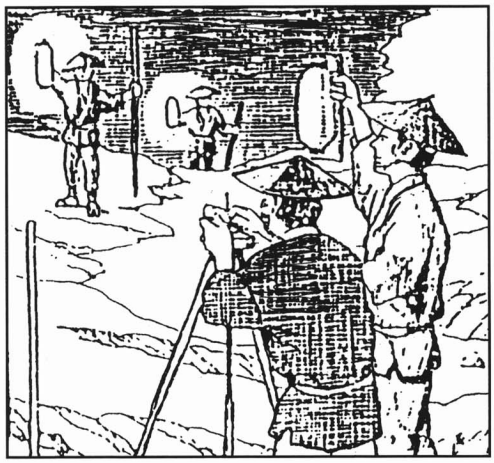
二合田用水をつくるためには、どんなくふうと努力があったのでしょうか。

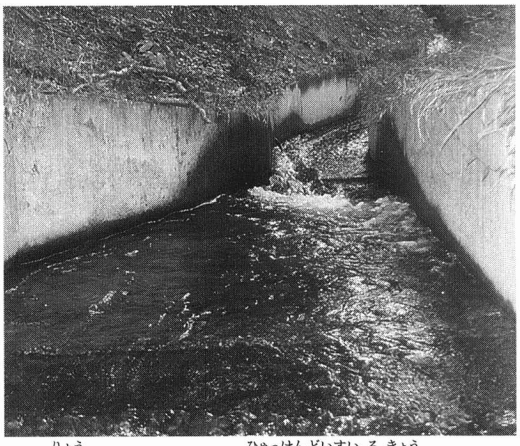
そくりょうのくふう



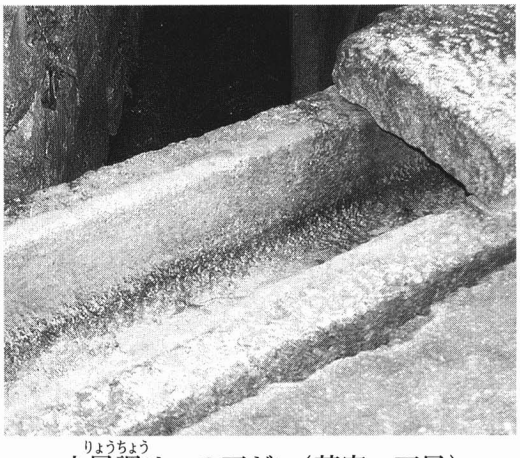
ちょうちんそくりょうの想像図

水路のそくりょうは、夜間に数人の人ぷにちょうちんを持たせて行った。また、近いきょりの所では線こうを使ってそくりょうしたと伝えられている。百間樋からお城山までは、１パーセントのかたむき（１００メートル進み１メートル下がるかたむき）なので、正かくなそくりょうぎじゅつがもとめられた。また、工事は、幕府のゆるしをえないものだったので、ひみつを守るために「ざい人がにげ出したので、藩は山がりを行っている」といううわさを流したともいわれている。

水量調せつのくふう

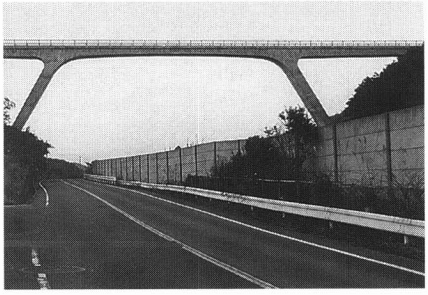


水量調せつのせき（百間樋水路橋　上流）



水量調せつの石どい（若宮一丁目）

百間樋水路橋



二合田用水は、水路をてきから守るためにできるだけといを使うことをさけ、山の地形に合わせてすぼりの水路をつくった。しかし、今の二伊滝の「百間樋水路橋」のところは、山なみがとぎれる場所のため、といを使わなければならなかった。そこで、木でつくったといをかけ、藩士にけいびをさせたということである。